

令和元年11月11日

大阪医科大学 教員・医師組合

執行委員長 吉田 秀司 殿

学校法人 大阪医科大学

理事長 植木 實

『要求書』の回答について

令和元年10月4日付貴組合からの「要求書」について別紙のとおり回報致します。

『要求書』に対する回答書

令和元年11月11日

学校法人 大阪医科薬科大学

『要求書』に対する回答書

要 求 項 目	回 答 内 容									
＜賃金・労働環境関連＞ 1. 基本給の引上げ(ベースアップ)について ベースアップ 3,000 円＋定期昇給	1. 平成 31 年度給与については、全教職員平均で 6,519 円の定期昇給 (2.04%)を行っており、本学は毎年 2%程度の定期昇給を実施しています。なお、今後の人事制度における処遇面では業務環境が厳しい中、限られた原資であることから一律に配分するのではなく、本法人の業務に、より貢献した割合に応じて配分していく方針です。 (平成 31 年度定期昇給実績) <table><tr><td>・全教職員平均</td><td>2.04 %</td><td>6,519 円</td></tr><tr><td>・教員平均</td><td>1.47%</td><td>6,141 円</td></tr><tr><td>・教員(教授除く)</td><td>1.58%</td><td>6,034 円</td></tr></table>	・全教職員平均	2.04 %	6,519 円	・教員平均	1.47%	6,141 円	・教員(教授除く)	1.58%	6,034 円
・全教職員平均	2.04 %	6,519 円								
・教員平均	1.47%	6,141 円								
・教員(教授除く)	1.58%	6,034 円								
2. 冬期賞与について (基本給＋家族手当)×2.7 ヶ月 +27,000 円	2. 冬期賞与については、以下のとおり支給する予定にしています。日頃の教職員の貢献を考慮して、昨年と同様の支給率とします。 ◇賞与支給日 令和元年 12 月 10 日(火) ◇支給月数及び加給額 2.5 ヶ月 + 23,000 円 ◇平成 30 年度実績 2.5 ヶ月 + 26,300 円 ◇令和元年度冬期賞与平均支給額(試算) <table><tr><td>・全教職員平均</td><td>835,872 円</td></tr><tr><td>(前年度比</td><td>- 3,920 円 - 0.47%)</td></tr><tr><td>・教員平均</td><td>1,180,926 円</td></tr><tr><td>(前年度比</td><td>-16,698 円 - 1.41%)</td></tr></table>	・全教職員平均	835,872 円	(前年度比	- 3,920 円 - 0.47%)	・教員平均	1,180,926 円	(前年度比	-16,698 円 - 1.41%)	
・全教職員平均	835,872 円									
(前年度比	- 3,920 円 - 0.47%)									
・教員平均	1,180,926 円									
(前年度比	-16,698 円 - 1.41%)									
3. 住宅手当の増額について 月額 8,000 円(持家の住宅手当月額 2,000 円の増額)	3. 他大学との比較が必ずしも社会状況を反映しているものではないと考えています。平成 30 年東京高裁の日本郵便事件の判決では、非正規職員への住宅手当賠償が認められたことにより、一般的に住宅手当は廃止・縮小となっています。本法人でも、現在新人事制度を検討している中、2020 年 4 月以降の入職者の住宅手当については、家賃補助として賃貸物件に係る家賃は、上限 27,000 円(最長 15 年迄)支給し、持家に対しては支給しない方針で進めています。持家手当の廃止は人件費の削減が目的ではなく、適正配分を目的としていることをご理解ください。									

4. 労使協定違反状態の解消について	4. 専門業務型裁量労働制の適用を検討していたが、本法人の現状や行政の動向による認識では導入は厳しいと判断しています。 今後、労使で認識を統一したうえで、在学、在院時間の把握とその内訳として、時間外労働時間及び研鑽の時間の申請・承認を行うようにし、勤怠管理の徹底を図っていきます。
5. 働き方改革について	「働き方改革」の検討部会の協議及び実施状況については、今後、労使協議会で定期的に情報を開示します。また、教授や診療科長等の管理職の方々との意識統一を図るよう進めています。
6. 女性医師支援センターの支援対象について	6. 女性医師支援センターは女性医師を対象に活動し、短時間勤務制度や保育室の利用範囲を拡大するなどの成果を上げているが、今後は状況を確認して支援対象者等の拡大を検討していきます。
7. 病院当直時の労働環境改善について	7. 病院当直時の当直室のシーツ交換及び食事補助については、現状を確認して、今後検討したいと思います。
8. ハラスメント対策について	8. ハラスメント対策については、昨年度に啓発リーフレットとホームページを刷新し、入職者や新入生全員に対しリーフレットを配布して利用方法等の説明をしています。また、年 2 回の啓発講習会も実施しており、積極的に活動しています。
9. 教室運営不均衡の是正について	9. 個人研究費や兼業の取扱いについては、現況を調査したうえで今後の方針を定めます。

以 上

業績報告資料(2019年度8月期)【大阪医科大学】

単位:百万円

1. 事業活動収支計算書・・・日数消化率41.9%

	年間予算	実績(A)	予算執行率(%)	前年同月(B)	前年比(A-B)	備考
①						
学生生徒等納付金	4,312	3,811	—	3,808	+3	
寄付金	627	350	55.8	240	+110	
経常費等補助金	1,666	0	—	2	▲2	
付随事業収入	459	130	28.3	132	▲2	
(内受託及び共研費)	(389)	(104)	(26.7)	(103)	(+1)	
医療収入	36,942	15,182	41.1	14,326	+856	+6.0%増加
その他(手数料含む)	794	160	20.2	140	+20	
教育活動収入計	44,803	19,635	—	18,650	+985	
人件費	20,248	8,512	42.0	8,151	+361	+4.4%増加
教育研究経費	18,393	7,326	39.8	6,887	+439	(注1)
管理経費	2,133	620	29.1	696	▲76	
その他	10	0	0.0	0	+0	
(内医療材料費)	(11,948)	(4,991)	(41.8)	(4,614)	(+377)	+8.2%増加
(内委託費)	(4,359)	(1,566)	(35.9)	(1,550)	+16	+1.0%増加
② 教育活動支出計	40,785	16,459	40.4	15,734	+725	
③ 教育活動収支差額(①-②)	4,017	3,176	—	2,915	+261	
④ 教育活動外収支差額	▲42	14	—	7	+7	
⑤ 経常収支差額(③+④)	3,975	3,191	—	2,922	+269	
⑥ 減価償却額	3,175	1,323	41.7	1,286	+37	
⑦ 減価償却後経常収支差額(⑤-⑥)	799	1,868	—	1,636	+232	
⑧ 特別収支差額	15	▲8	—	▲34	+26	
予備費	300	0	—	0	+0	
⑨ 基本金組入前当年度収支差額(⑦+⑧)	514	1,860	—	1,602	+258	
基本金組入額	▲4,819	▲2,008	—	▲511	▲1,497	
当年度収支差額	▲4,304	▲148	—	1,090	▲1,238	

(注1)教育研究経費・・・医療材料費+377

- 附属病院の増収が寄与し、教育活動収入は前年より985百万円の増加。
教育活動支出は主に人件費、医療材料費が増えており、前年より725百万円の増加。
その結果、経常収支差額は前年より269百万円の増益となった。

2. その他指標

借入残高	—	8,378	—	9,272	▲894
リース・割賦債務	—	2,007	—	2,949	▲942
有利子負債	—	10,386	—	12,221	▲1,836
現預金	—	7,876	—	5,777	+2,099
有価証券	—	111	—	11	+100
特定資産	—	9,388	—	10,607	▲1,219
金融資産	—	17,377	—	16,396	980
施設設備投資支出	2,569	1,320	51.4	829	+491

(注2)現預金・・・2019年9月2日の特振業者支払1,495百万円控除後の残高は6,381百万円

- 借入残高は894百万円、リース・割賦債務は942百万円減少し、有利子負債全体では1,836百万円減少。
現預金は2,099百万円、有価証券は100百万円増加、特定資産は1,219百万円減少し、
金融資産全体では980百万円増加した。
なお、現預金の増加は月末休日の関係により支払いを翌月初に繰り越したことによる。
(9月2日現在では604百万円増加に留まる)

以上